

〈先週の説教から〉

『黙示録④一神の聖水を入れた鉢』

アモス書 4:9~12 ヨハネの黙示録 16:4~16

16章から、いよいよ最後の裁きが開始します。その意味では黙示録のクライマックスへと入っていきます。その最後の災いを起こす物が七人の天使に渡された「神の怒りが盛られた七つの金の鉢」でした。そしてその鉢の中に入っている「神の怒りを地上に注ぎなさい」と命じられたのでした。ただ、なぜ最後の怒りを表すものが「鉢(=原文ではフィアーレ、水鉢)」なのでしょう？

これまで黙示録は、地上への災いを象徴するものとして《七つの封印》と《七つのラッパ》が語られてきました。「封印」とは、巻物を開く際に切るものです。よく私たちも『封を切る』と言いますし、いかにも新しく何かが始まることを指します。更に「ラッパ」もトランペットのことですから、これも新しい出来事が開始するとの予感を与えます。しかし「鉢」に同様のイメージはありません。最後の裁きを表すものとしてはどうかと思ってしまう。

ある解説者によれば、ここでは「注ぐ」ということが重要とされているのではと。確かに、この鉢はちょうど昔の洗面器のような形をしていますから、やかんやコップとは違って一気に中身を注ぎ掛けることが出来ます。それが神様の裁きの発出の急激さをよく表しているのではないかと言い得ます。そして『覆水盆に返らず』という諺がありますように、いったんその中身を注いってしまったら、もはや取り戻すことは出来ないという点が神様の《最後の裁き》のあり方を示しているのではないかと言い得るのです。

問題は、神様がもう取り返しがつかない、最後の裁きを実行しようと思わせてしまうのかという点です。そのことが今日の聖書の言葉によく表されています。

即ち4節で「第三の天使が、その鉢の中身を水の源に注ぐと、水は血になった」とあります。人間や動物の飲み水が血に変わったことを指します。そのことで、否が応でも人間はのどが渴けば「血を飲む」ことになります。その結果「あなたは彼ら(=悪魔の化身である獣に従ってその獣の偶像を拝む者たち。信仰者たちを迫害して殺した人々)に血をお飲ませになりました。それは当然なことです。」(6節)となるのです。旧約聖書の律法によれば血に触ることだけでも《汚れた存在》とされました。まして、その血を飲むということは考えられない行為であり、そのようなことをした人間は神様から《呪われる存在》となったのでした(=今でも厳格なユダヤ人は血を抜いてからステーキを

食べます)。まさに、神様が最後の裁きを下そうと決心されるに足る理由となっているのです。

更に8節では「第四の天使が、その鉢の中身を太陽に注ぐと、太陽は人間を火で焼くことを許された」という災いが起こります。かつて、これこそ原子爆弾による滅亡の預言だと曲解した団体もありますが、これは太陽そのものが制御を失って暴走することを指しています。ここに「許された」とある点が重要で、いつもは神様が地球上の命を育むために太陽をコントロールしておられたのです。その制御をもはや外されると、そうすれば太陽は勝手にやりたい放題に燃え盛ることになり、地球をそして人間を焼き尽くしてしまうということなのです。ここで前提となっていることは、神様はこの天地を創造され、今もこの地で命が豊かに育まれる(=「産めよ、増えよ」)ように整えられておられるということです。本当に感謝なことです。しかし、その制御を止められた時、自然界は各々勝手なことを始め、バランスを失い、滅びるということを目指すのです。

そしてもっと問題なのは、そのことで「人間は、激しい熱で焼かれ、この災いを支配する権威を持つ神の名を冒瀆した」という点です。世の人は、普段、神様のことを礼拝してもいない、考えてもいないのに、苦しいことや災害が起こると『神も仏もあるものか』とか神様のせいにして、冒瀆するのです。しかし、先ほどの水が血に変わるということも、この太陽が暴走するというのも、人間の水質汚染や二酸化炭素の大量放出等による、地球の砂漠化や温暖化の結末とも考えられるのです。同じことが10節でも「第五の天使が、その鉢の中身を獣の王座に注ぐと、獣が支配する国は闇に覆われた。人々は苦しみもだえて自分の舌をかみ、苦痛とはれ物のゆえに天の神を冒瀆し、その行いを悔い改めようとはしなかった」のです。獣に従い、獣の像を拝んだのは彼らの意思であり、彼らの行動です。それなのにそのことで痛い目に遭うと神様を恨み、呪うのです。そのような人間の様子を目の当たりにして、神様がこの裁きを最後にされる、世の終わりを来らせると決断されるのはむしろ当然ではないかと思えるのではないのでしょうか。

先ほど読みましたアモス書4章では、神様が様々な警告や試練を何度も与えられたけれど「お前たちはわたしに帰らなかった」と言われています。その結果、どうなるかと言えば「お前は自分の神と出会う備えをせよ」と命じられています。まさにこの黙示録の箇所に通じています。どんな人間も(私たちも)いつか神様の前に出ます。その時に何を語るのか？『主よ、憐れんでください』なのでは？

No. 62 - 11

週報

2020年度 教会標語

「生活の真ん中に礼拝する心を！」

2021年 3月 14日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>